

平成二十八年 度 金沢学院短期大学 入学試験問題（一般入試Ⅲ期）

国 語

（注意事項）

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は本文八ページであり、解答用紙は一枚である。
- 3 解答はすべて解答用紙の指定のあるところに記入すること。
- 4 問題冊子は持ち帰ってもよいですが、コピーして配付・使用するの
は法律で禁じられています。

問題は、次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜7)に答えなさい。

生活していくことは、ものやサービスの受け手として、それを使っていくことです。なんのためにそうするかというと、結局自分が精神的にも肉体的にも満足を得たいからです。

A、どうなればより満足がえられるでしょうか。その基本はなんといっても健康であることです。そのためには、安全な食べ物と無害で^aカイテキな環境が必要です。その環境ですが、いままで私たちは、身のまわりの環境のことだけに関心をはらってきました。ごみ焼却工場が近くに建設されそうだと聞けば、^a反射的に公害が出るのではないかと^b身がまえます。こうした環境問題は、私たちが生活している地域や都市のスケールで発想したものです。

B、これは最近ではかなり改善されてきています。ごみの焼却工場の例でいえば、この一〇年間に建設された施設で、周辺住民に健康上の被害が出たというようなことは^bカイムに近いのではないかと思います。これから問題にしなければならないのは、地球スケールでの、そしてロングレンジでの環境問題です。五〇年後に異常気象が^cヒンパツし、紫外線が増え、大気そのものが人体に有害になるといような被害は、地球の全域に一樣に生じます。ウ私たちの子ども、孫、そのまた子どもたちの未来を考えて、いまの生活スタイルを選択することが求められています。こうした環境汚染の原因物質は、私たちの生活のいたるところに入りこんでいて、C 私たちの体には直接なんの被害も与えません。こういうなかで生活スタイルを変えていくには、知識とセンスが必要です。

暖房や冷房がききすぎている乗物やオフィス、歯磨き・洗顔・調理のときの湯水の流しっぱなしや、テレビ・電気のつけっぱなし、メーカーからのエコロジーメッセージに気づかず、値段と見栄と便利さで商品を選ぶ買い物、公共輸送機関が利用できるのに車を使うこと……。私たちにとって身につまされることばかりです。いままであたりまえのこと、よいと思っていたこと、まわりの人も同じようにしていることを、自分の意思で変えていくわけですから、なぜそうしようとするのかについての知識が必要ですが、日本人とか〇〇会社の社員としてではなく、地球人としてのセンスが必要です。

ここで、ケチとぜいたくについて考えてみましょう。ケチとかぜいたくとかいうことは、ものが少ないとき、ものがあっても買うお金がない時代、逆にいえば、だれもがものを持ち、お金を使うことを渴望しているときの言葉です。ある人がそれができるのにものを買わない、お金を使わないとすると「ケチ」と非難します。D、大多数の人がそれができないのに、ある人がどんなものを買ひ、お金を使うのを見てうらやむときに「ぜいたく」といいます。しかし、地球はいま、もの余り・金余りの人間によって痛めつけられているのです。オイルショックのときも、もの(資源)が枯渇するといわれましたが、そうかんたんにはなくなることがわかってきました。地球にはまだものがいっぱいあります。お金も先進国には十分あります。とくに日本は余っています。

地球、とくに先進国ではいま、ものが余っています。E、^eケチとぜいたくという言葉の社会的基盤がなくなってきました。そういうときに、こ

の言葉のもつ概念にしばられている人は時代遅れということになります。いま地球に不足しているのは、ものではなく、ものの入れもの、資源を使いごみにしたときのごみの捨て場（地球環境）です。先進国、とくに日本に不足しているのは、お金ではなくて地球を救うための F です。

ものをどんどんつくり、使い捨てにする一方で、なんでもお金で解決しようとする日本人は、自らのことを日本語で「ぜいたく」と称しても、それは本人の勝手ですが、じつは ^オ地球語に翻訳するとそれは「ケチ」ということになってきます。ものを大切に、できるだけごみをつくらないようにする人、そうなるように知恵を出す人、汗を流す人が、地球語では「ぜいたく」な人なのです。

地球環境を大切に守りながら子孫に伝えていくことに ^dイゾンのある人はいないでしょう。問題は自分自身でそれを理解して行動していくことです。あなたがいま、この文章を読んでいるその ^eジュンカンにも、たえずまわりに捨てつづけている「ごみ」をとおして、生活を見つめ直していくことが大切です。そのときのキーワードは、地球語の「ぜいたく」なのです。

（八太昭道『ごみから地球を考える』による）

問1 傍線部a～eの片仮名の語を、漢字に直しなさい。

問2 空欄 A ～ E にあてはまる語を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、その番号を書きなさい（ただし、同じものを二度以上選んではならない）。

- | | | | | |
|------|------|-------|-------|--------|
| ① また | ② では | ③ つまり | ④ しかも | ⑤ ところが |
|------|------|-------|-------|--------|

問3 傍線部ア「反射的に」、イ「身がまえます」の本文中の意味を、それぞれ次の各群の①～⑤の中から一つずつ選んで、その番号を書きなさい。

ア「反射的に」

- | | | |
|---------------|-----------------|-------------|
| ① 感情的になって興奮して | ② 知ったかぶりをして偉そうに | ③ 深く考えず自動的に |
| ④ 危険を感じて素早く | ⑤ いつものように何事もなく | |

イ「身がまえます」

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ① 警戒する | ② 準備する | ③ 嫌悪する | ④ 排除する | ⑤ 逃避する |
|--------|--------|--------|--------|--------|

問4 傍線部ウ「私たちの子ども、孫、そのまた子どもたちの未来を考えて、いまの生活スタイルを選択することが求められています」とあるが、筆者は具体的にどのような生活スタイルを選択すべきだと述べているか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 現在さえ幸せならば後はどうなってもよいという利己的な生き方をするのではなく、しっかりとした人生設計のもとで生活スタイルを選ぶこと。
- ② 生活の便利さ心地良さだけを追求するのではなく、地球全体の資源と環境を維持することを最優先にした生活スタイルを選ぶこと。
- ③ 個人の欲望の充足を最優先する考え方を改め、自らは犠牲になっても家族や国を守るという価値観に適合した生活スタイルを選ぶこと。
- ④ 自分たちの狭い共同体に閉じこもるのではなく、言葉や文化の壁を越えて広く世界の人々とつながるような生活スタイルを選ぶこと。
- ⑤ 大量生産、大量消費こそが豊かな生活であるという考え方を改め、自分にとって真に価値あるものを中心にしたシンプルな生活スタイルを選ぶこと。

問5 傍線部エ「ケチとぜいたく」という言葉の社会的基盤」とあるが、このことについて説明した①～⑤の中から最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 「ケチ」、「ぜいたく」の既存の意味の背景になっていた〈もの〉と〈金〉との関係。
- ② 「ケチ」、「ぜいたく」の語源になった〈もの〉に対する飽くことのない人々の欲望。
- ③ 「ケチ」、「ぜいたく」の意味が曖昧になるような入り組んで分かりにくい社会の仕組み。
- ④ 「ケチ」、「ぜいたく」の意味の違いを明確にしてきた〈金〉に対する対立する価値観。
- ⑤ 「ケチ」、「ぜいたく」の従来の意味を成り立たせていた日本社会における慣習。

問6 空欄 F にあてはまる六字の語句を、この空欄より前の本文中からさがして抜き出さない。

問7 傍線部オ「地球語」の本文中での意味はどうか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 地球の人々が皆等しく理解できるような理想の言語。
- ② 地球全体のことを考えるという文脈の中で意味づけられた言葉。
- ③ 宇宙の中の地球という意識がその意味に反映している日本語。
- ④ 地球を第一に考える人々の間で流通している新しい日本語の使われ方。
- ⑤ 地球環境を守ろうとする真心が端的に表れている言葉。

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えなさい。

わたしがかねがねうさんくさいと思っているものの一つに「真の自己」というのがある。この言葉はカウンセリングなどで、一なコマーシャルのよう^aに乱用されている。拙著『幻想の未来』のなかでも述べたことだが、この「真の自己」の思想というのは、要するに、患者が神経症の症状や葛藤に悩んでいるのは「真の自己」を見失い、「偽りの自己」のなかに逃げ込んでい^aるからであって、「真の自己」を^aタツセイすれば、すべてはうまくゆくという思想である。

しかし、わたしに言わせれば、アこの思想こそが逃避であり、自己欺瞞(じこぎまん)である。この思想がコマーシャルとして一なのは、患者(別に患者ばかりでなく、普通の正常人の場合も同じだが)が現在もっているいろいろな劣等面、醜い面などを「偽りの自己」の表われだと言ってくれるからである。そういう表層の部分を突き破ったどこか心の奥底のほうに「真の自己」が隠されており、それは、自由で自発的で自然な生命エネルギーの流れであったり、心やさしく美しい人間性であったり、優れた二才能であったり、妨げられることのない豊かな特性能力であったりする。

ありふれたただの人(わたしをはじめとして、ほとんどの人はそうだが)に「君のなかには天才的才能が埋もれている」と言えば、誰だって喜ぶ。その上、この思想は、これまで「真の自己」が埋もれたままにな^aっているのは、親の育て方が間違っていたからだとか、社会が不当な^bヨクアツを強いているからだとか、すべて他人のせいにしてくれる。この思想を信じた人は、実に気楽で希望に満ちた状況におかれる。

A、「真の自己」を見出し、実現しさえすればすべてはうまくゆくという希望は、先祖がどこかに金銀財宝を隠してくれており、それを掘り出しさえすれば、今の貧乏生活から解放され、すべてはうまくゆくという希望と同じようなものである。この人がどこかに埋蔵されているはずの金銀財宝を見つけようとして多大の費用を使い、B、他の仕事はいっさいしないので収入がなく、貧乏生活から解放されるどころか、ますます貧乏になってゆくように、この思想を信じた人は、劣等面、醜い面も含めたところの現実の自分を引き受けず、症状や葛藤と対決せず、どこにもありはしない「真の自己」を求めることだけでむなしく一生を過ごしてしまうことになる。

実際、現実の自分の姿が「偽り」で、どこか深層とやりに埋もれているはずの自分が「真」であるというのはおかしな思想である。しかし、おかしいとは言っても、この思想もそれなりの三背景をもっている。ここでそれをくわしく述べるゆとりはないが、ごく簡単に言えば、西欧近代において^a神が死んだことと関係がある。神が存在していれば、宇宙の秩序ひいては社会の秩序も、個人の自我の秩序も絶対普遍的な神が支配しており、そのあいだに原理上対立はないが、神が死んだとなれば、社会を支え、かつ個人を支える共通の原理がなくなり、社会と個人、そして個人と個人は解決不可能な対立にさらされることになった。それでは困るので西欧人はそのあと理性とか国家とか真理とかの神の代替物を次から次へと求めてゆくことになったのだが、「真の自己」も神の代替物の一つであり、神のように個人の外側に存在し、個人を超越しているのではなく、個人に内在しているとされている点において、ますます

す個人の内面に価値をおき、ますますナルチシスティックになってゆく近代人、現代人の願望とピッタリ。イチチしている。

「真の自己」は、単に個人に内在しているものであるだけでなく、普遍的価値ともつながっている。この思想によれば、個人と個人、個人と社会の対立を招くような醜いエゴイズム、残酷な攻撃性などは「偽りの自己」の表われであって、「真の自己」を実現した個人と個人のあいだには少なくとも破壊的な対立はなく、個人がすべてそのようになれば理想の社会が実現するはずである。C、現実の個人と個人、個人と社会のあいだに破壊的な対立があるのは、各人が「真の自己」を実現しないからだということになる。

「真の自己」を実現した個人は、自己を失ってただひたすら社会的規範に盲従する個人でもなく、おのれのエゴイズムの満足だけを求めて社会と対立し、孤立する個人でもなく、自己を生かすと同時に普遍的価値をも実現する個人である。D、この思想は、近代個人主義がもたらした個人と個人、個人と社会の^aな対立と^dムジンを一挙に解決する大変便利な思想なのである。

E わたしも、外に表われている個人の現実の姿以外にその個人の可能性がないと言っているのではない。しかし、そういう可能性が個人の「深層」にヨクアツされているとすれば、それは彼が認めれば不安に襲われるような可能性だからであり、「真の自己」のような。ツゴウのいいものではない。

(岸田秀『不惑の雑考』による)

問1 傍線部a～eの片仮名の語を、漢字に直しなさい。

問2 空欄A～Eにあてはまる語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きなさい(ただし、同じものを二度以上選んではならない)。

- ① つまり ② したがって ③ もちろん ④ しかし ⑤ しかも

問3 空欄一～ニにあてはまる語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きなさい(ただし、同じものを二度以上選んではならない)。

- ① 誘惑的 ② 不可避的 ③ 歴史的 ④ 独創的 ⑤ 短絡的

問4 傍線部ア「この思想こそが逃避であり、自己欺瞞(ごきまん)である」とあるが、筆者が「真の自己」という思想をこのように考える理由は何か。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 人それぞれの個性が違う自己像を、「真の自己」と「偽りの自己」という二者択一の安易なやり方で決めようとするから。
- ② 「真の自己」の問題は西欧近代の特殊な状況が背景にあるのに、それを無理やり日本にも当てはめて考えようとしているから。
- ③ 「真の自己」か「偽りの自己」かは、自分自身が決める問題なのに、カウンセラーなど自分以外の人たちの意見で決まっているから。
- ④ 一生をかけて求め続けなければ得られない「真の自己」を、簡単に獲得できるような錯覚を人々に与えるから。
- ⑤ 自分の現状における問題点を「偽りの自己」のものとして自らの問題から切り離し、駄目な自分に向き合おうとしないから。

問5 傍線部イ「神が死んだ」とあるが、筆者はこの言葉で西欧の人々のどのような意識の変化を述べたのか。次の①～⑤の中から最も適当なものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

- ① 神が世の中に実在するという意識から、神は人間のつくった虚構に過ぎないと、その存在を否定するという意識への変化。
- ② 神が人々の心に平安をもたらすという意識から、心の平安は個人個人が自らの努力で見つけるものだという意識への変化。
- ③ 神が万物の中心にあつてそれを支配するという意識から、人間が中心となって世の中を支配するという意識への変化。
- ④ 神は唯一絶対のものであるという意識から、キリスト教以外の宗教の多様な神々の存在を認めていこうという意識への変化。
- ⑤ 神は人間の姿をした親しみやすい存在であるという意識から、姿のない科学的真理こそが神であるという意識への変化。

問6 傍線部ウ「普遍的価値」とあるが、これと同じことを述べている部分を、本文中から十九字で抜き出さない(句読点は一字と数える)。

問7 この文章のタイトルとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- ① くたばれ自己実現！
- ② 今こそ神の復活を！
- ③ 偽りの自己を克服せよ！
- ④ 甘えるな若者！
- ⑤ 可能性から逃げないで！